在来種

千葉県の絶滅危惧種
（一般保護生物）

ギンブナ

コイ科
全長：15 ～ 40 ㎝

川や池沼を始め幅広い淡水域に生息し、全国的に広く分布している。千駄堀池でも数が多い。
オスはほとんど存在せず、メスは他の魚の精子の刺激を利用して繁殖する（受精はしない）。
そのため、生まれる子どもはメスのクローンとなる。

★

千駄堀池でのレア度

在来種

成虫
約 7.5 ～ 9.3 ㎝

ヤゴ

コオニヤンマのヤゴ

サナエトンボ科
全長(ヤゴ):約 3.5 ㎝

樹林が近くにある川や池を利用する大型のトンボ。基本的に川に住むため、今回捕獲したヤゴは上流から流されてきたものと考えられる。ヤゴ（幼虫）は平たく枯れ葉のような姿で、2 ～ 4 年間水中で過ごす。成虫は初夏～秋頃によく見られる。オニヤンマ（オニヤンマ科）に似るが科が異なり、こちらは胴体の割りに頭が小さく後足が非常に長い。

★★

千駄堀池でのレア度

在来種

千葉県の絶滅危惧種
（一般保護生物）

スジエビ

テナガエビ科
全長:3.5～5 ㎝

名前の通り、体にしま模様がある淡水のエビ。
テナガエビの仲間だが、こちらは手が長くならない。
千駄堀池には非常に多くの個体数が生息しており、
ヨシやガマなど池の中に見られる植物が安全な隠れ家になっていると思われる。

★

千駄堀池でのレア度

在来種

千葉県の絶滅危惧種
（一般保護生物）

テナガエビ

テナガエビ科
全長：3 ～ 20 ㎝

名前の通り、手（第二胸脚）が長いエビ。
長い手は、エサをつかんだり、他のテナガエビとケンカ（縄張りから追い出すとき）をしたりするときに使われる。千駄堀池は非常に多くの個体数が生息しており、ヨシやガマなど池の中に見られる植物が安全な隠れ家になっていると思われる。

★

千駄堀池でのレア度

在来種

千葉県の絶滅危惧種
（重要保護生物）

ナマズ

ナマズ科
全長:約 60～70㎝

川や田んぼ、池沼などに生息し、昔から食用としても親しまれた大型の淡水魚。動物食で、オオクチバスやブルーギル、アメリカザリガニなどの外来種も捕食する。そのため、外来種の増加を抑える効果が期待される。

※ナマズの本来分布は西日本であると言われており、東海地方以東へは江戸時代以降に人為的に持ち込まれたとされている。しかし、東日本でも古くから生息していることから在来種として扱われることが多い。千葉県レッドリストでも重要保護生物として選定しているため、ここでも在来種とした。

★★★

千駄堀池でのレア度

在来種

千葉県の絶滅危惧種
（一般保護生物）

ヌマチチブ

ハゼ科
全長：5 ～ 15 ㎝

主に河川の中下流域に生息するハゼの仲間。
雑食性で、主に藻などをを食べる。顔の細かく白い斑点が特徴。気性が荒く、なわばりに入ってくる魚に容赦なく攻撃する。

★★

千駄堀池でのレア度

在来種

千葉県の絶滅危惧種
（一般保護生物）

モクズガニ

イワガニ科
甲羅の幅：約８㎝

河口から川を上って池などで育ち、再び河口に戻って産卵する。今回本種が見つかったことで、千駄堀池が今も江戸川を通じて海と繋がり、生きものの往来が出来ているということがわかる。両腕の藻の役割は、
①エサとなる小さな生きものをおびき寄せるため
②異性へのアピール（大きいほどモテる）
などの説がある。

★★★

千駄堀池でのレア度

在来種

千葉県の絶滅危惧種
（一般保護生物）

モツゴ

コイ科
全長：４～８㎝

川や池沼で見られ、千駄堀池では非常に個体数が多い。水質悪化にも強く、にごった池や水路でも生息することができる。カワセミを誘致するために意図的に放流されることもあり、場合によっては国内外来種として扱われることがある。千駄堀池のモツゴは元々この地域で命を繋いできたものと思われるが、他の地域から持ってきた個体が放流されると遺伝子撹乱に繋がるため注意が必要。

★

千駄堀池でのレア度

在来種

ヨシノボリの仲間

ハゼ科
全長：４～６㎝

流れの緩やかな河川、池沼などに生息する小型のハゼの仲間。左右の腹ビレが一体化して吸盤状になっているため、石などに張りつくことができる。藻や小さな生きものを食べる雑食性。
オオクチバスやブルーギルの捕食被害にあっているためか、千駄堀池では数が少なかった。

★★

千駄堀池でのレア度